

2015年10月7日 全8頁

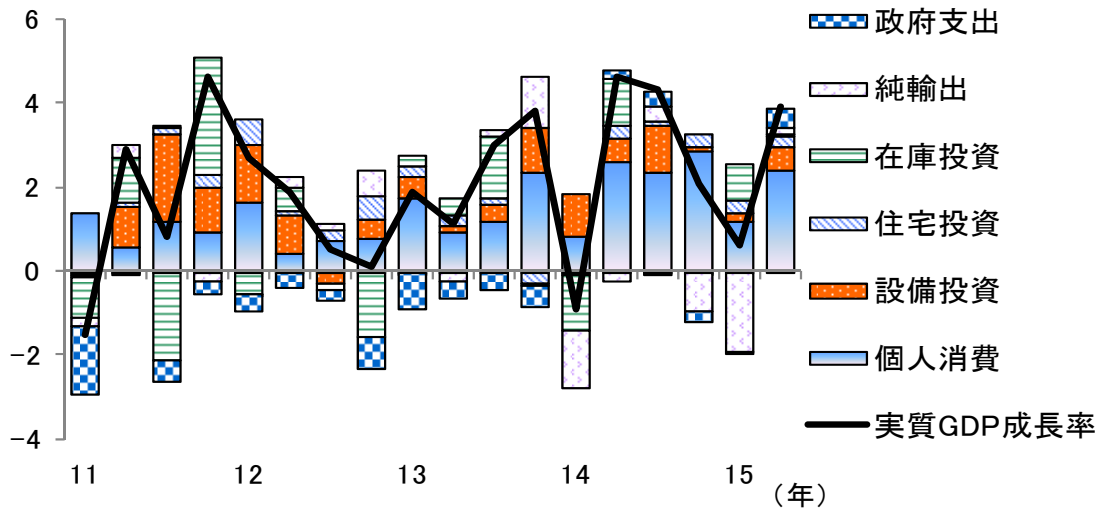
アメリカ経済グラフポケット (2015年10月号)

2015年10月6日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 橋本 政彦

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



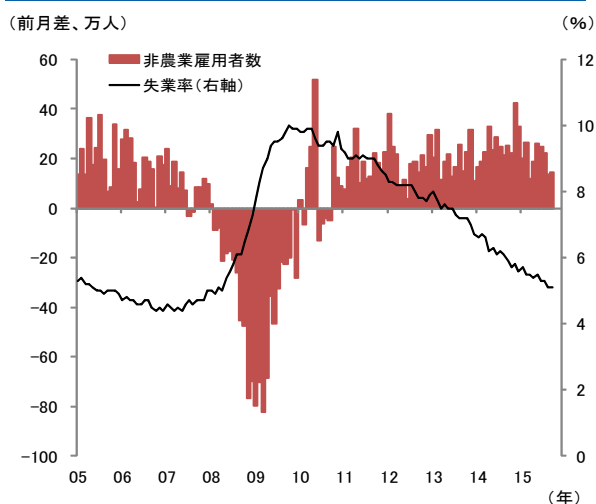
(前期比年率、%、%pt)	2013		2014				2015	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	3.0	3.8	-0.9	4.6	4.3	2.1	0.6	3.9
個人消費	1.7	3.5	1.3	3.8	3.5	4.3	1.8	3.6
設備投資	3.5	8.7	8.3	4.4	9.0	0.7	1.6	4.1
住宅投資	4.9	-8.1	-2.8	10.4	3.4	10.0	10.1	9.3
政府支出	-2.2	-2.7	0.0	1.2	1.8	-1.4	-0.1	2.6
輸出	4.2	10.9	-6.7	9.8	1.8	5.4	-6.0	5.1
輸入	2.4	1.0	2.8	9.6	-0.8	10.3	7.1	3.0
寄与度								
個人消費	1.2	2.4	0.9	2.6	2.3	2.9	1.2	2.4
設備投資	0.4	1.1	1.0	0.6	1.1	0.1	0.2	0.5
住宅投資	0.2	-0.3	-0.1	0.3	0.1	0.3	0.3	0.3
在庫投資	1.5	-0.1	-1.3	1.1	0.0	0.0	0.9	0.0
政府支出	-0.4	-0.5	0.0	0.2	0.3	-0.3	0.0	0.5
輸出	0.6	1.4	-1.0	1.3	0.2	0.7	-0.8	0.6
輸入	-0.4	-0.2	-0.4	-1.5	0.2	-1.6	-1.1	-0.5

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

雇用環境¹

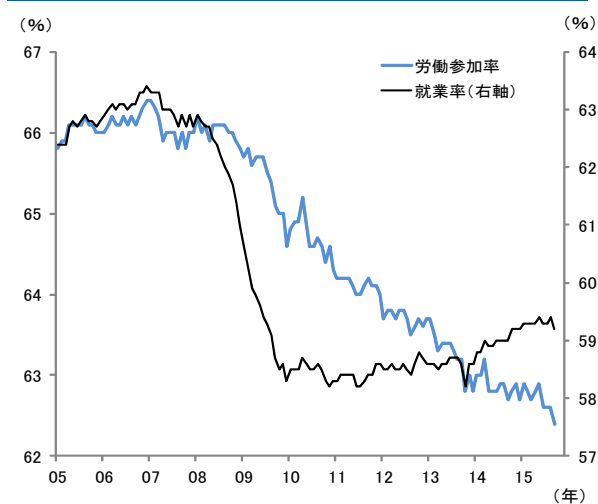
- ◆ 9月の失業率は5.1%となり、前月と同水準であった。就業者は減少したが、労働参加率が低下したことが失業率を押し下げた。
- ◆ 非農業雇用者数の前月差は14.2万人増にとどまり、2ヵ月連続で20万人台を下回った。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は19.9万人増であった。

非農業雇用者数と失業率



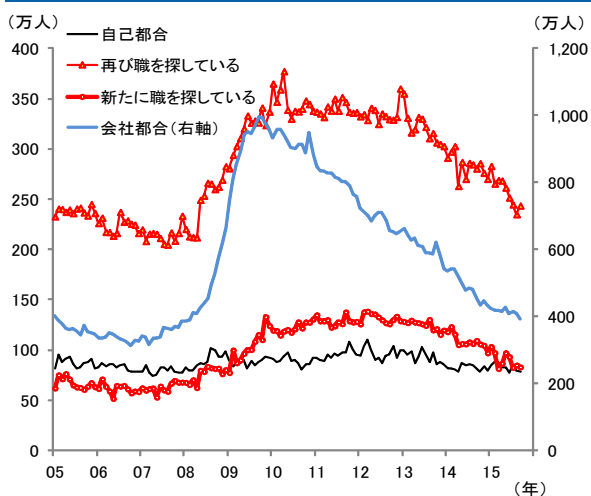
(出所)BLS,Haver Analyticsより大和総研作成

労働参加率と就業率



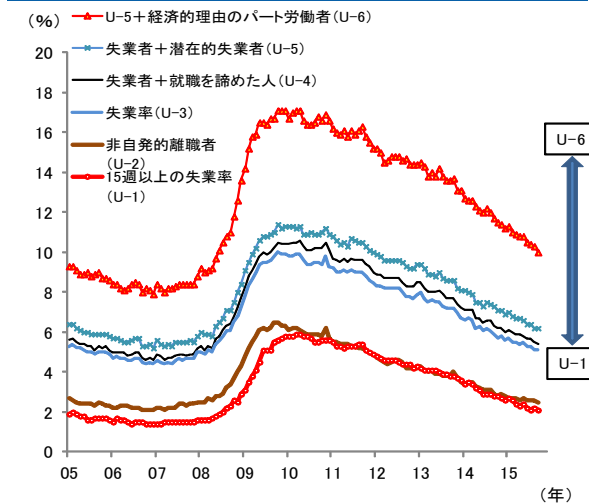
(出所)BLS,Haver Analyticsより大和総研作成

理由別失業者数



(出所)BLS,Haver Analyticsより大和総研作成

定義別失業率



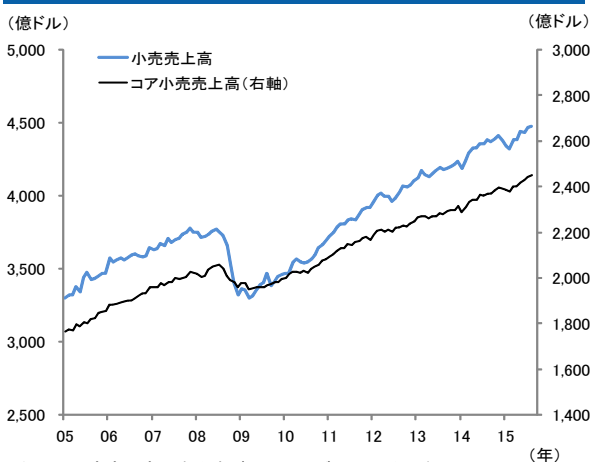
(出所)BLS,Haver Analyticsより大和総研作成

¹ 大和総研 ニューヨークリサーチセンター 橋本政彦「失望的な雇用の伸び」(2015年10月5日)参照。
http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20151005_010187.html

個人消費

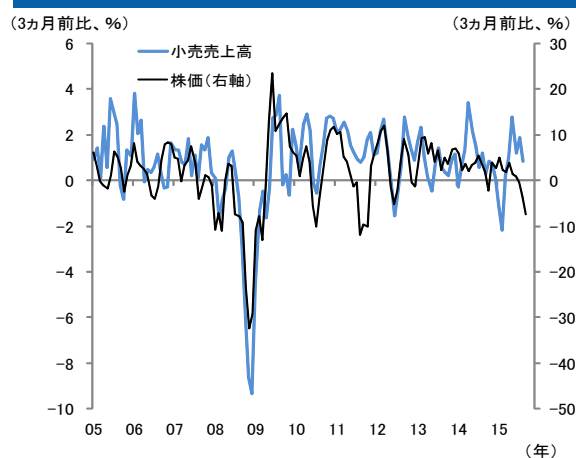
- ◆ 8月の小売売上高は前月比0.2%増、コア小売売上高も同0.4%増加した。前月に引き続き堅調な伸びを見せた。
- ◆ 9月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の91.9から87.2に低下した。3ヵ月連続で低下し、10ヵ月ぶりに90を下回った。
- ◆ 9月の自動車販売台数は前月比2.0%増加し、年率換算で1,817万台であった。低金利やガソリン安が寄与し、2005年7月以来の高水準を記録した。

小売売上高の推移



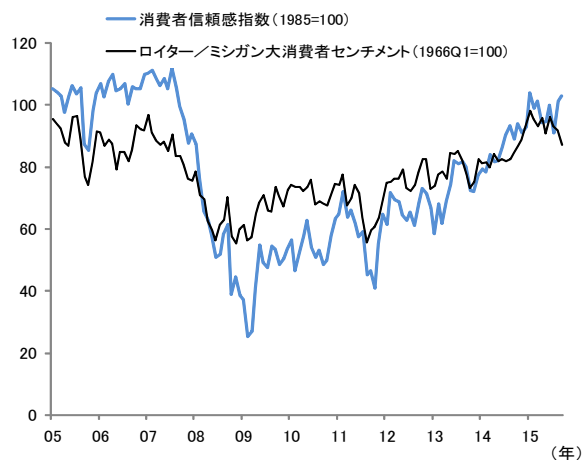
(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。
(出所)Census,Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



(注)株価はWilshire5000。
(出所)Census,Dow Jones,Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所)ロイター/ミシガン大,Conference Board,Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数



(出所)Autodata,Haver Analyticsより大和総研作成

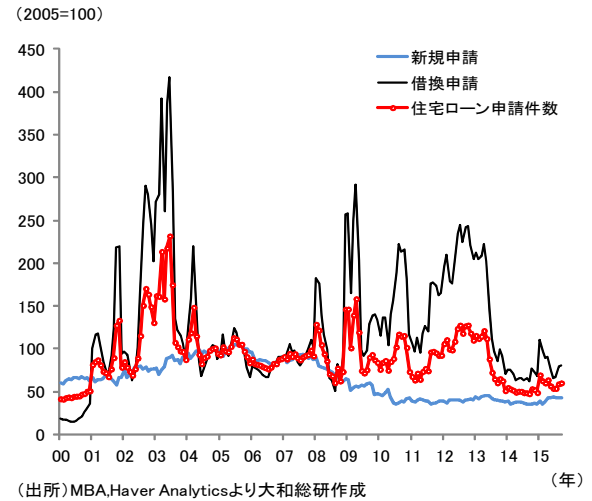
住宅市場

- ◆ 8月の新築住宅着工（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比3.0%減の年率換算112.6万戸であった。減少したものの、5ヵ月連続で100万戸超となった。
- ◆ 8月の中古住宅販売（一戸建て）は、2007年2月以来の高水準となった前月から5.3%減少し、年率換算で469.0万戸となった。
- ◆ 8月の新築住宅販売（一戸建て）は、前月比5.7%増の年率換算55.2万戸であった。2008年2月以来の高水準となった。
- ◆ 7月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は前月比0.2%低下し、3ヵ月連続の低下となった。

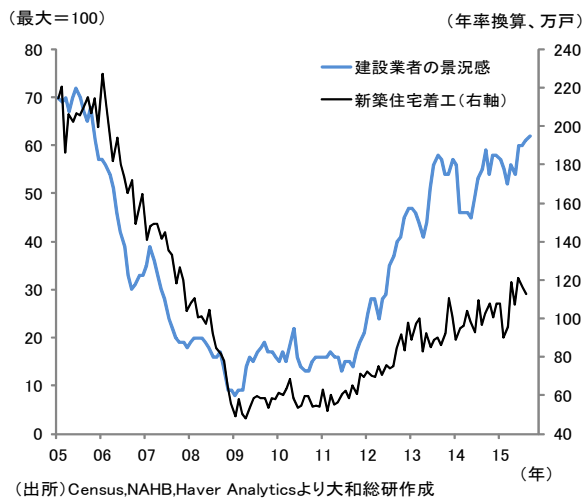
住宅販売（一戸建て）



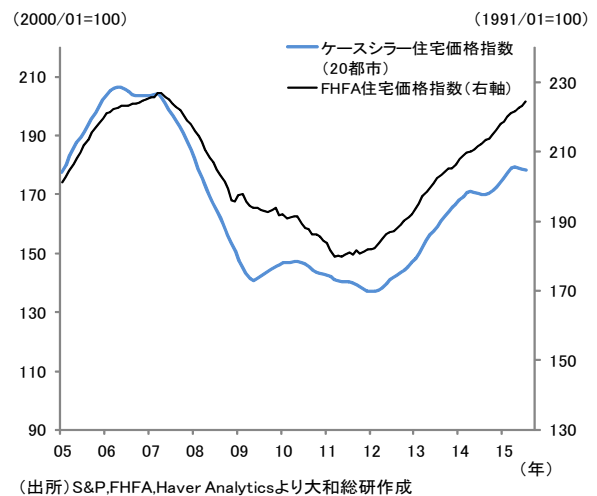
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



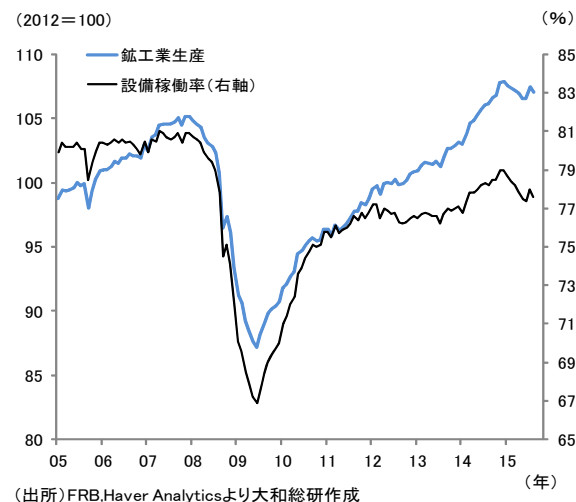
住宅価格



企業動向

- ◆ 8月の鉱工業生産指数は前月比0.4%低下し、3ヵ月ぶりの低下となった。指数全体の約7割を占める製造業が、自動車及び自動車部品の大幅な生産減によって同0.5%低下し、全体を押し下げた。
- ◆ 8月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は前月比0.8%減で、3ヵ月ぶりに減少した。
- ◆ 9月のISM製造業指数は、前月差0.9%ポイント低下の50.2%であった。3ヵ月連続で低下し、2013年5月以来の低水準となった。非製造業指数は、前月から2.1%ポイント低下し、56.9%であった。両指標ともに景気の拡大・縮小の分岐点である50%を上回る水準を維持しているが、製造業指数の低下傾向が著しい。

鉱工業生産と設備稼働率



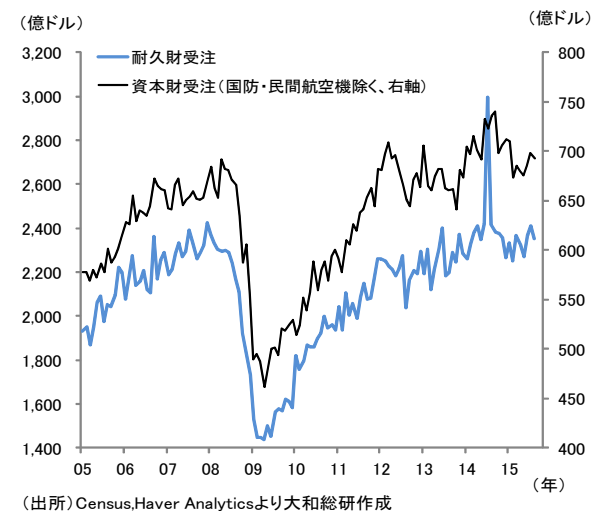
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



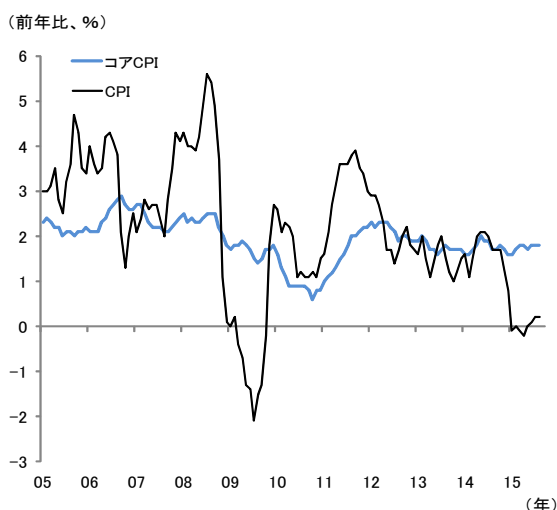
耐久財受注



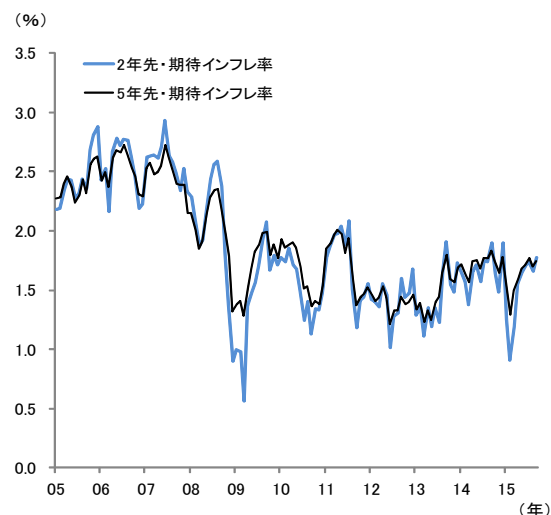
物価動向

- ◆ 8月のCPI（消費者物価指数）は前年比0.2%上昇し、3ヵ月連続でプラスとなった。コアCPIも同1.8%上昇した。コアCPIは安定した推移が続いているものの、安価なエネルギー価格やドル高が物価の押し下げ要因となり、インフレ率はFRBの長期目標である2%を下回っている。
- ◆ 9月の2年先期待インフレ率は1.77%、5年先期待インフレ率は1.74%であり、いずれも前月から上昇した。
- ◆ 9月末のWTI原油先物価格は45.09ドル/バレルと、8月末の49.2ドル/バレルから下落した。世界的な景気減速による需要悪化懸念や、米国の原油在庫水準が高いことなどが影響し、価格が下がった。

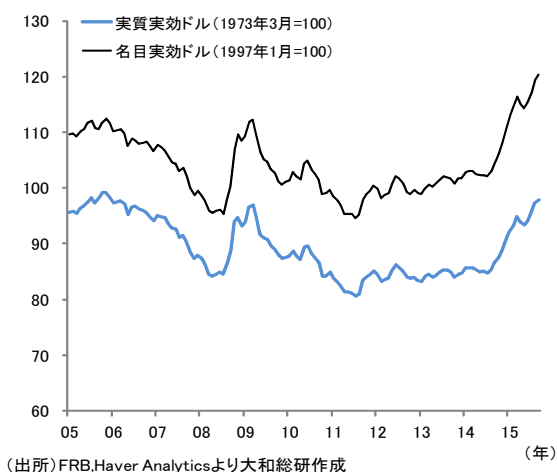
消費者物価指数



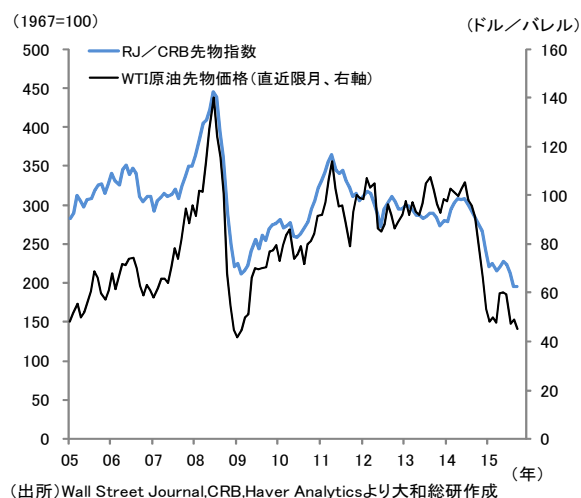
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



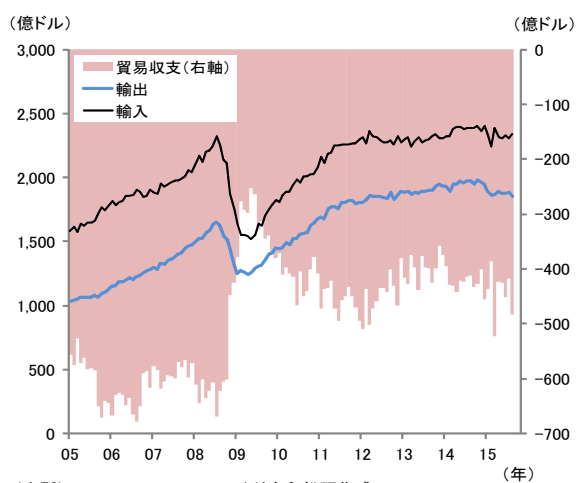
コモディティ価格



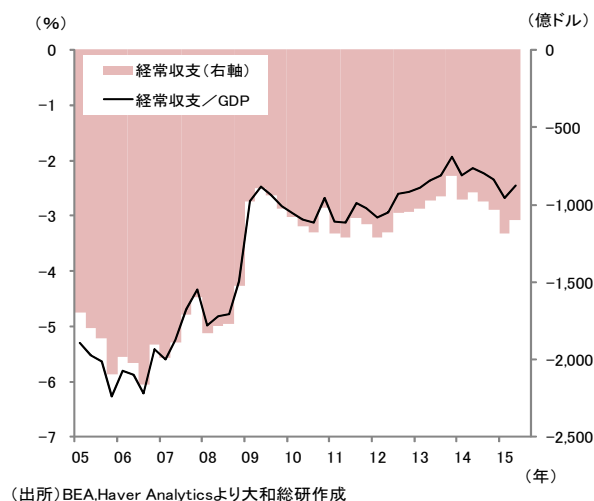
輸出入・経常収支

- ◆ 8月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比2.0%減少し、輸入は同1.2%増加した。輸出は、燃料油やプラスチック材料などの工業用品の輸出が減少した。一方の輸入は、携帯電話をはじめとする消費財の増加が目立った。外国からの需要の弱さが貿易赤字につながっており、貿易収支は前月から15.6%と大幅に拡大し、約483億ドルとなった。
- ◆ 地域別（財）では、中国への輸出が前年比4.7%減少し、欧州向けも同11.8%減、日本向けも同14.1%減少した。輸入は、中国からの輸入が同10.5%増、欧州からの輸入も同0.1%増加したが、日本からの輸入は同4.5%減少した。

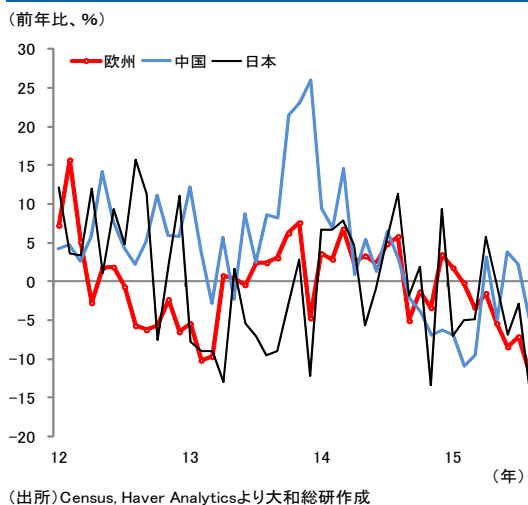
貿易収支動向



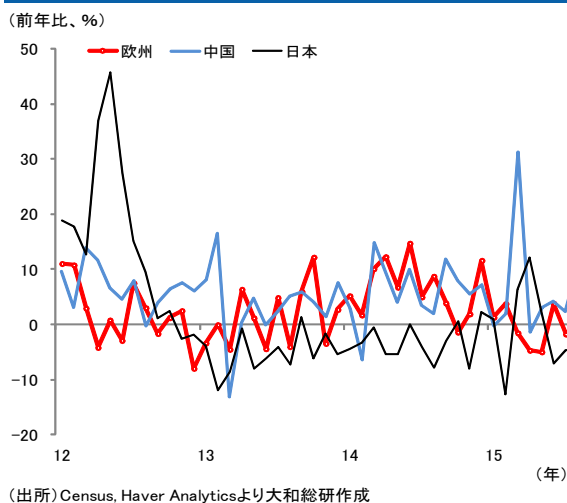
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



国・地域別輸入動向



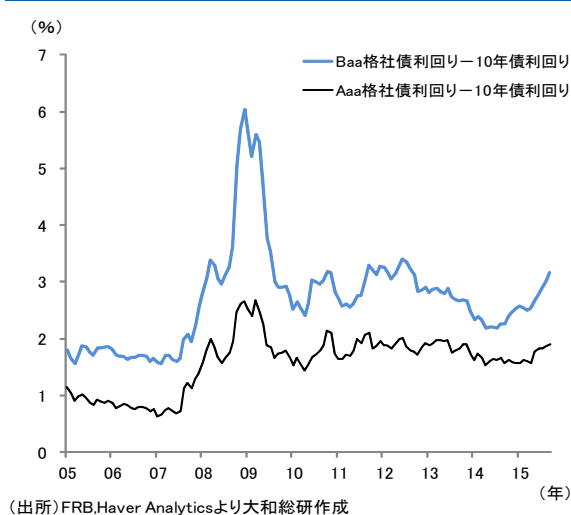
金融・財政

- ◆ 9月の長期金利（10年債利回り）の平均値は2.17%と、前月と同水準であった。利上げ時期が後ずれするとの観測が強まったことで、月末にかけて低下傾向となった。
- ◆ 9月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、事実上のゼロ金利政策の据え置きと、保有する資産規模の維持が決定された。FRBの資産残高は、直近の9月30日の週平均が約4兆5,300億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は、トレンドとして赤字幅が縮小している。

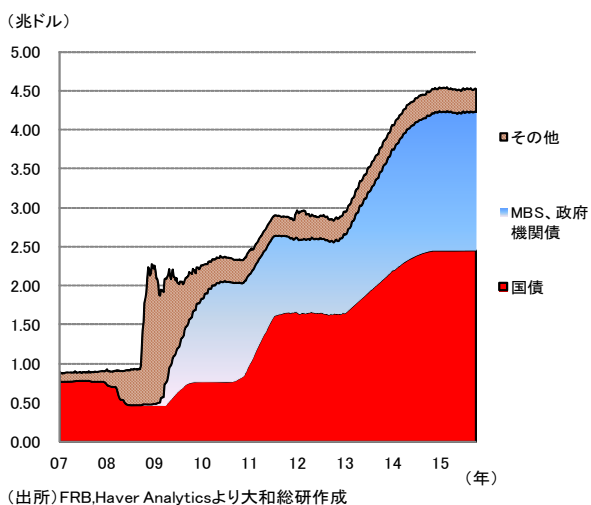
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

